農村地帯の
障害児のための保育サービス

Indonesia　インドネシア

氏 名　Wawan Setiawan Aks Mm　ワワン（19期）
所属団体　ソシエタ・インドネシア

障害がある子どもたちに対して、一人ひとりのニーズに合わせた保育サービスを提供し、多面的な支援を行っています。また、子どもたちの個性や能力を大切にしながら、障害の有無にかかわらず、みんながともに生きる社会をめざしています。

所属組織の概要

社会福祉サービスを必要とする人に対し、適切な情報を提供するとともに、利用までの手続き等がスムーズに進むよう支援しています。個人へのサポートだけではなく、世帯単位で関わるケースもあります。また、地域に対する情報発信等も行っています。ソーシャルワーカー等の専門職とボランティアが協力して、活動を支えています。

事業の目的

本プロジェクトの目的は障害がある子ども達に対し、一人ひとりのニーズにあわせた保育サービスを提供し、個性を大切にしながら発達をサポートすることです。また、子どもだけでなく、家族へのサポートも行います。子どもを家庭で育ててきた家族も自分の時間を持つことができるよう、親が安心して預けられる保育サービスをつくります。

さらに、障害の有無にかかわらず、すべての人がともに生きるインクルーシブな社会をつくることを大きな目標に掲げています。

活動地域

西ジャワ州チアンジュールのジャヤギリ村とシンダン・バランおよびシダウン準地区

対象者

障害がある子ども（53名）とその家族

子どもは３～ 18歳で、精神的・知的に障害がある、発達障害がある、感覚障害や運動障害により日常生活に困難がある、健康面で問題がある等、特別なケアやサポートが必要な子どもです。

事業の成果

- 障害のある子どもに対する特性や個性にあわせた保育について、子どもの親にも参加してもらい一緒に実践しました。実践を通し、子どもの幸福を改めてともに考え、親が子育てに必要な知識やスキルを習得することで、子育てに対し前向きに考えることができるようになりました。
- 障害のある子どもたちへの保育場面に、地方自治体や地元のコミュニティ団体の関係者にも参加してもらいました。地域としてインクルーシブな環境をどのように整えるかをともに考えるきっかけとなり、地方自治体から「障害のある子どもやその家族をサポートするセンターを設立したい」という将来ビジョンを聞くことができました。

実施内容

2024年６月20日～12月22日を実施期間として、以下の内容を行いました。

◉障害児への保育を行うスタッフ間での活動内容の協議と共通認識の醸成◉

本プロジェクトを進めるチーム（スタッフ･幹部･ボランティア）で打合せを行い、活動内容について話し合い、目的や目標について全員で確認しました。

◉子どもと親のニーズを聞き取り、支援プログラムを作成◉

子どもと親に対して面談を行い、子どもの身体・認知・感情・社会的発達についての評価をするとともに、保育ニーズを聞き取りました。それらの情報を整理し、個別の支援目標と支援プログラムを作成しました。

◉保育サービスの実施と、自立に向けて必要な社会経験・生活スキルの研修◉

支援目標、支援プログラムに沿って保育サービスを実施しました。読み聞かせや音楽・芸術活動などの子どもに合わせた活動や、それぞれのスキルに応じた学習支援など、11種類の活動を組み合わせて毎日の保育を行っています。また、活動のなかには、子ども達が社会生活のなかで必要なコミュニケーションスキル、公共交通機関の乗り方等の生活スキル等を学べるプログラムも組み込んでいます。さらに、子どもの発達を支えるため、理学療法・作業療法・言語療法・行動療法など、さまざまな面からのアプローチも取り入れました。活動のなかには、家族や地域に住む親子にも参加を呼び掛けるものもありました。

◉プロジェクトの振り返りと評価◉

活動中は、チームで定期的に振り返りやミーティングを行い、子どもたちの進捗状況やプログラムの効果について評価を行いました。必要に応じて支援計画の見直しも行いました。また、子どもたちの両親に定期的に子どもの状況を共有する機会も設けました。

最終日には、子ども達に感想を聞く時間をつくり、スタッフ間でもプログラムの成果を話し合い、プロジェクトの評価をしました。

今後の展望

まずは、このプロジェクトをブラッシュアップしながら、継続していくことが目標です。そのために、今後は、企業とのパートナーシップをつくることやクラウドファンディングなどを行い、運営資金を獲得していくことが必要だと考えています。

さらに、障害がある子どもと家族に対しきめ細やかな支援を行うため、スタッフの増員や連携先の社会資源の選択肢を増やすことも検討していきたいです。専門的な資格をもつスタッフの人材不足も課題であるため、今後は大学とも連携して福祉分野の学生にもアプローチし、インターンシップなどを受け入れながら将来の活動の担い手を育成したいと考えています。

収支報告

〈収 入〉

項　目	金額（円）	内　訳
全社協からの助成金	304,500	
自己資金	121,800	
合　計	426,300	

〈支 出〉

項　目	金額（円）	内　訳
プロジェクトに必要な会議と広報	72,210	資料印刷代　2,610円 会議費　46,110円 謝礼　23,490円
（活動初期）スタッフにむけた研修・オリエンテーションの実施	54,810	資料印刷代　13,050円 会議費　26,100円 謝礼　15,660円
（活動中期）スタッフにむけた研修・オリエンテーションの実施	54,810	料印刷代　13,050円 会議費　26,100円 謝礼　15,660円
（活動後期）スケールアップ研修	54,810	資料印刷代　13,050円 会議費　26,100円 謝礼　15,660円
評価会議の開催	64,380	資料印刷代　2,610円 会議費　46,110円 謝礼　15,660円
メンター・チューター雇いあげ費	78,300	
研修の講師（監督官）委託費	46,980	
合　計	426,300	

注）インドネシアルピー（IDR）で提出された報告をもとに日本円に換算して表記
　　換算レート：１ルピー≒0.009円〔2024年５月15日の為替レート〕